

◆◆ Cool! 小樽 ◆◆

北 北海道旅行の目的地として、小樽は絶大な人気を誇っている。しかし、国内客か海外客かを問わず日帰りで立ち寄ることが多いため、小樽の宿泊、小売り、飲食などの業者が受ける恩恵は、それほど多くない。

小樽の行政機関や団体、旅行者らはこれまで、市内の観光資源開発に積極的に取り組み、いくつかの施策を打ち出してきた。飲食店などの営業時間延長、朝市観光の推進、参加型体験プログラムの開発などだ。観光メニューを充実させることで、宿泊客の割合を増やそうと努力を重ねてきたのである。

ただ、小樽の魅力は小樽市内だけでなく、より広域的に再検討すべきではないだろうか。近年、後志地域全体の観光地としての人気が高まっているからだ。

例えば余市町や積丹町へ行くきたい観光客は多い。ところが交通が不便なためうまく行程を組めず、情報が少ないこともあって躊躇するケースは少なくない。札幌からの交

王力勇

宿泊増へ後志めぐる観光提案を



通の便利さや、市内の宿泊施設の豊富さといった優位性を發揮すれば、小樽は後志地域全体の観光ハブ（拠点）として、旅行者により多くの選択肢を提供できるはずだ。

後

志地域全体の関係団体や観光・小売業者らが連携し、2〜3日で周遊するモデルコースを開発してはどうだろう。すぐに役立つ地域密着型のコース提案は、多くの旅行者に喜ばれる。地域内における観光客の流れを増やすことができるに違いない。

要は小樽を訪れる客を市内で囲い込むのではなく、後志全体へと送り出すことだ。そのことによって最もメリットを享受するのは、小樽にはかならない。なぜなら旅行者の多くが、小樽に宿泊することを遠慮からである。

（オウ・リョクユウ 小樽商大准教授＝中国遼寧省出身）

◇翻訳・北海道新聞Hot Media、構成・北海道新聞小樽報道部。原文は多言語サイト（<https://h2w.hokkaido-np.co.jp/>）＝QRコードで読めます。

